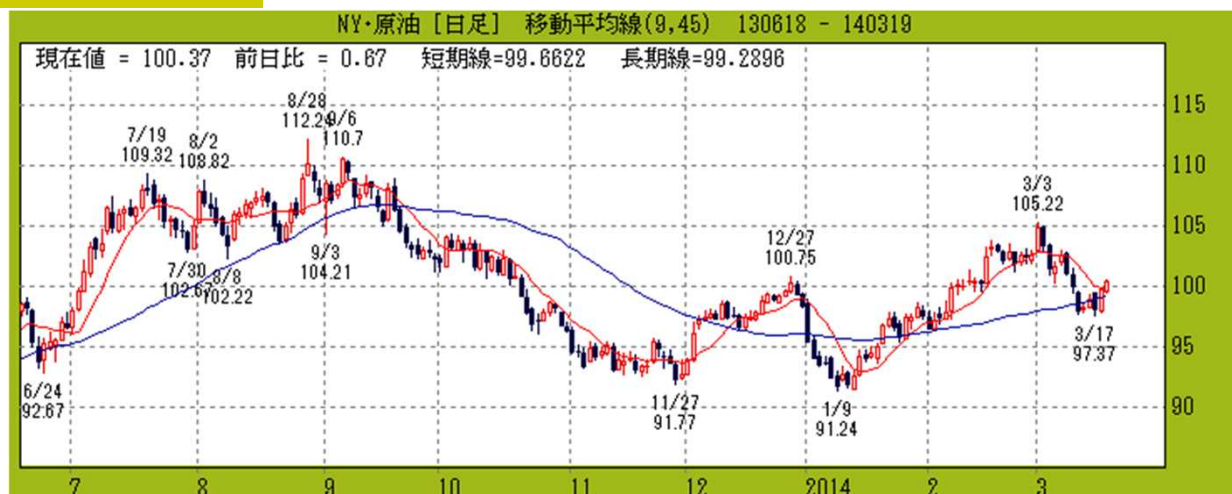




原油価格反発

発行日 : 2014/3/20

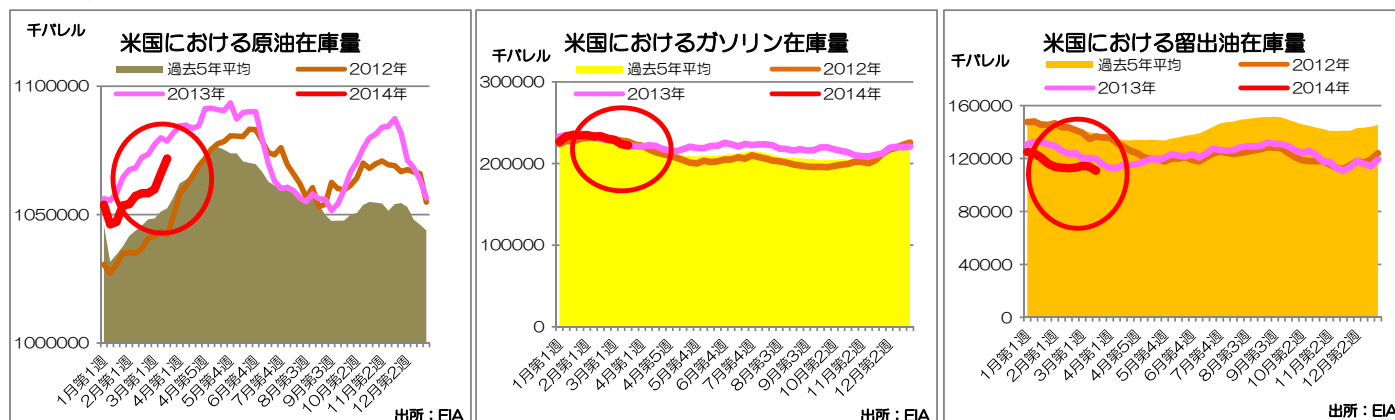


19日NY原油4月限は0.67ドル高の100.37ドル。外国為替相場では、米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明を受け、ユーロ・ドル 高が優勢となったが、原油相場の反応は限定的だった。期近4月限はあす20日に納会を控えるなか、予想以上の原油在庫増加なども、引き続きウクライナ情勢の緊張や受渡場所となるオクラホマ州クッシング原油在庫のさらなる減少見通しなどに下支えられ、一時、11日以来の水準へ上昇した。最も取組高の多い5月限は、夜間取引から米石油協会（API）統計での原油在庫増加も98ドル台半ばで下げ渋ると、終了間際には11日以来となる99.20ドルへ上昇した。クリミアの検察当局がウクライナ海軍トップを事情聴取のため一時的に拘束したとの報などを受け、引き続きウクライナ情勢の緊張が背景。また、前日に引き続き、受渡場所となるオハイオ州クッシングからテキサス州ヒューストンを結ぶシーウェイ・パイプラインの送油能力が5月にも2倍余りに引き上げられることから、クッシング原油在庫が一段と減少するとの見通しも一因となった。しかし、立会い開始後は、積極的な買いが続かず。米東部夏時間午前10時30分に発表された米エネルギー情報局（EIA）統計で原油在庫が予想以上に大幅増加し、9週連続して増加したことや、米連邦公開市場委員会（FOMC）でのさらなる量的緩和縮小見通しなどに圧迫され、中盤に入ると98.33ドルへ下落。ただし、下値で売りも続かず、引けにかけては4月限に追随する格好となり、朝方の高値をわずかに上抜く99.23ドルまで上昇した。なお、立会い終了後の時間外取引では99.26ドルまで強含んだ。国際機関協調データ・イニシアチブ（JODI）は19日、ウェブサイト上で、イランの1月の原油輸出高が日量128万バレルと前月と変わらずと発表し、2カ月連続して2002年1月以来の低水準となった。イラクの1月の原油輸出高は日量223万バレルと前月の235万バレルを下回り、サウジアラビアは前月と変わらずの750万バレルとなった。海外主要通信社が伝えた。EIAが19日発表した3月14日までの週間石油統計は以下の通り。事前予想は、原油在庫が前週比275万バレル増加、ガソリンが155万バレル減少、留出油が80万バレル減少だった。（日本先物情報ネットワーク）

TOPICS 米国の原油在庫+585万バレル増。

米国の石油在庫

までの週	在庫量（千バレル）			前週比（千バレル）			前年同月比（％）			過去5年比（％）		
	原油在庫	ガソリン在庫	留出油在庫	原油	ガソリン	留出油	原油	ガソリン	留出油	原油	ガソリン	留出油
2014年1月3日	1,053,861	226,959	124,973	▲2,675	+6,243	+5,826	▲0.3%	+2.8%	+4.9%	+0.8%	+0.7%	▲15.6%
2014年1月10日	1,046,203	233,142	123,950	▲7,658	+6,183	▲1,023	▲0.7%	+2.7%	▲0.8%	+1.4%	+5.3%	▲17.2%
2014年1月17日	1,047,193	235,265	120,738	+990	+2,123	▲3,212	+0.1%	+0.9%	▲2.6%	+1.2%	+4.6%	▲18.6%
2014年1月24日	1,053,614	234,446	116,154	+6,421	▲819	▲4,584	+0.6%	▲0.3%	▲3.8%	+1.5%	+2.9%	▲21.3%
2014年1月31日	1,054,054	234,951	113,794	+440	+505	▲2,360	+0.0%	+0.2%	▲2.0%	+1.2%	+2.3%	▲22.8%
2014年2月7日	1,057,321	233,098	113,063	+3,267	▲1,853	▲731	+0.3%	▲0.8%	▲0.6%	+1.3%	+1.3%	▲22.5%
2014年2月14日	1,058,294	233,407	112,724	+973	+309	▲339	+0.1%	+0.1%	▲0.3%	+1.2%	+1.4%	▲21.7%
2014年2月21日	1,058,362	230,600	113,062	+68	▲2,807	+338	+0.0%	▲1.2%	+0.3%	+1.0%	+0.8%	▲20.9%
2014年2月28日	1,059,791	228,996	114,476	+1,429	+1,604	+1,414	+0.1%	▲0.7%	+1.3%	+1.1%	+0.4%	▲19.1%
2014年3月7日	1,065,971	223,766	113,943	+6,180	▲5,230	▲5,533	+0.6%	▲2.3%	▲0.5%	+1.4%	▲1.0%	▲18.5%
2014年3月14日	1,071,821	222,299	110,846	+5,850	▲1,467	▲3,097	+0.5%	▲0.7%	▲2.7%	+1.8%	▲0.9%	▲20.4%



原油在庫は前週比+585万バレル増加して10億7,182万バレルとなった。これは前年比では+0.5%、過去5年比では+1.8%多い水準。ガソリンは前週比▲146万バレル減で4週連続で在庫が減少している。前年比▲0.7%、過去5年比では▲0.9%少ない水準。

TOPICS 米国の原油輸入は、前年比▲90万バレル減

米国産原油の生産量											
日量千バレル	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	前週比	前年比	前年比%	過去5年平均	過去5年平均比
1月第1週	4,935	5,507	5,575	5,844	7,002	8,145	+24	+1,143	+16.3%	6,415	+1,730
1月第2週	4,917	5,496	5,205	5,726	7,041	8,159	+14	+1,118	+15.9%	5,336	+2,823
1月第3週	5,052	5,404	5,321	5,722	6,989	8,052	▲107	+1,063	+15.2%	5,375	+2,677
1月第4週	5,045	5,421	5,568	5,720	6,993	8,044	▲8	+1,051	+15.0%	5,439	+2,606
2月第1週	5,235	5,403	5,597	5,763	6,997	8,044	+0	+1,047	+15.0%	5,500	+2,545
2月第2週	5,327	5,475	5,610	5,819	7,064	8,132	+88	+1,068	+15.1%	5,558	+2,574
2月第3週	5,323	5,482	5,604	5,817	7,118	8,148	+16	+1,030	+14.5%	5,557	+2,592
2月第4週	5,300	5,505	5,591	5,814	7,096	8,059	▲89	+963	+13.6%	5,553	+2,507
3月第1週	5,373	5,510	5,593	5,806	7,093	8,077	+18	+984	+13.9%	5,571	+2,507
3月第2週	5,401	5,527	5,591	5,830	7,159	8,182	+105	+1,023	+14.3%	5,587	+2,595
3月第3週	5,414	5,540	5,570	5,826	7,150	8,215	+33	+1,065	+14.9%	5,588	+2,628

米国の原油生産量は前週比日量+33千バレル増、前年比日量+106万バレル増、過去5年比では日量+262万バレル増である。

TOPICS 米国の原油輸入は、前年比▲90万バレル減

米国の原油輸入量												
日量千バレル	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	過去5年平均	前週比		前年同月比		過去5年比	
							日量千バレル	%	日量千バレル	%	日量千バレル	%
1月第1週	8355	8895	9,907	8342	7961	8990.8	+466	+6.2%	▲381	▲4.6%	▲1,030	▲11.5%
1月第2週	8895	8999	8,265	8030	6889	9255.4	▲312	▲3.7%	▲235	▲2.8%	▲1,225	▲13.2%
1月第3週	8540	9385	8,853	7730	7544	9360	▲300	▲3.7%	▲1,123	▲12.7%	▲1,630	▲17.4%
1月第4週	7867	9014	8,880	8,068	8048	9,105	+338	+4.4%	▲812	▲9.1%	▲1,037	▲11.4%
2月第1週	8426	8909	8,413	7,569	6887	9,260	▲499	▲6.2%	▲844	▲10.0%	▲1,691	▲18.3%
2月第2週	8342	8266	8,756	7,513	7929	8,951	▲56	▲0.7%	▲1,243	▲14.2%	▲1,438	▲16.1%
2月第3週	8548	8106	9,091	7,689	7421	8,928	+176	+2.3%	▲1,402	▲15.4%	▲1,239	▲13.9%
2月第4週	9084	8010	9,187	7,958	7037	9,002	+269	+3.5%	▲1,229	▲13.4%	▲1,044	▲11.6%
3月第1週	9236	8300	8,712	7,308	7112	8,943	▲650	▲8.2%	▲1,404	▲16.1%	▲1,635	▲18.3%
3月第2週	8492	8681	8,716	7,535	7311	9,112	+227	+3.1%	▲1,181	▲13.5%	▲1,577	▲17.3%
3月第3週	8428	8987	8,224	7,317	7309	8,857	▲218	▲2.9%	▲907	▲11.0%	▲1,540	▲17.4%

米国の原油輸入量は前週比日量▲21万バレル減、前年同月比日量▲90万バレル減、過去5年比では日量▲154万バレル減である。

TOPIC s 米国の石油精製設備稼働率は85.6%に減少だが、例年よりは良い

石油精製設備稼働率

%	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	前週比	前年比%	過去5年平均	過去5年平均比
1月第1週	84.6	79.9	88.0	85.6	89.1	92.3	+1.9	+3.2	85.4	+6.9
1月第2週	85.2	81.3	86.4	83.7	87.9	90.0	▲2.3	+2.1	84.9	+5.1
1月第3週	83.3	78.4	83.0	82.2	83.6	86.5	▲3.5	+2.9	82.7	+3.8
1月第4週	82.5	78.5	81.8	81.8	85.0	88.2	+1.7	+3.2	81.9	+6.3
2月第1週	83.5	77.7	84.5	82.8	84.2	86.1	▲2.1	+1.9	82.6	+3.5
2月第2週	81.6	79.1	84.7	84.0	83.8	87.1	+1.0	+3.3	82.9	+4.2
2月第3週	82.3	79.8	81.2	85.5	82.9	86.8	▲0.3	+3.9	82.5	+4.3
2月第4週	81.4	81.2	79.4	83.6	85.1	88.0	+1.2	+2.9	82.1	+5.9
3月第1週	83.1	81.9	80.9	83.9	82.2	87.4	▲0.6	+5.2	83.1	+4.3
3月第2週	82.7	80.7	82.0	82.7	81.0	86.0	▲1.4	+5.0	82.6	+3.4
3月第3週	82.1	80.6	83.4	82.2	83.5	85.6	▲0.4	+2.1	82.4	+3.2

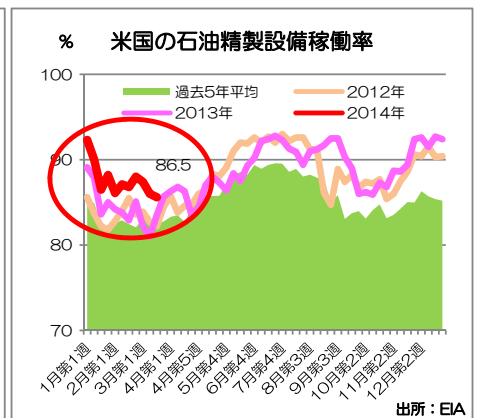
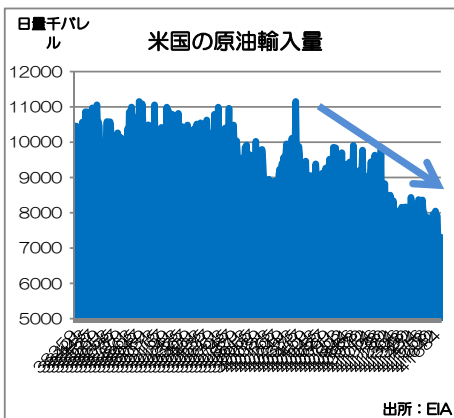
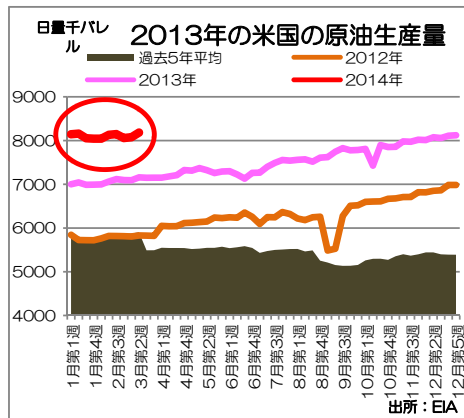
米国の石油精製設備稼働率は、前週の86%から85.6%に下がっている。しかし、前年比では2.1%、過去5年比では3.2%高い稼働率を保っている。

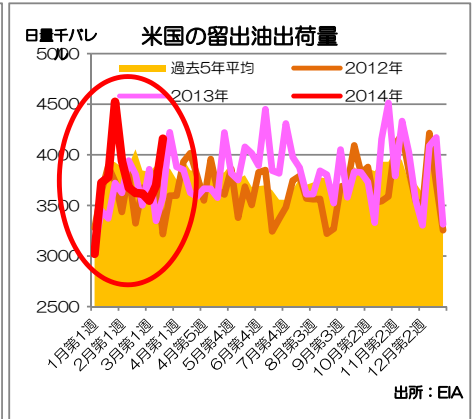
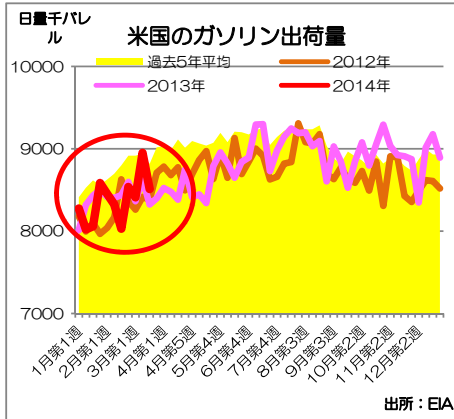
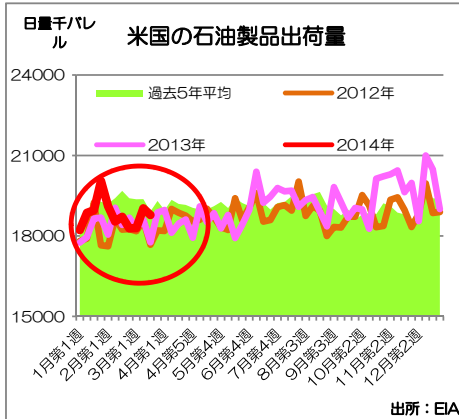
TOPIC s 米国の石油製品出荷量

石油製品出荷量

までの週	出荷量（日量千バレル）			前週比（千バレル）			前年同月比（%）			過去5年比（%）		
	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油
1月3日	18,222	8,274	3,022	▲782	▲619	▲292	+2.6%	+3.3%	▲2.1%	▲0.6%	▲1.6%	▲9.3%
1月10日	18,858	8,021	3,724	+636	▲253	+702	+5.0%	▲3.6%	+8.1%	+2.3%	▲5.9%	+3.9%
1月17日	18,959	8,059	3,779	+101	+38	+55	+1.7%	▲4.4%	+12.1%	▲2.3%	▲6.5%	▲4.3%
1月24日	20,047	8,584	4,524	+1,088	+525	+745	+7.3%	+1.0%	+21.6%	+4.0%	+0.3%	+15.2%
1月31日	19,110	8,452	3,940	▲937	▲132	▲584	+5.9%	+0.4%	+8.7%	▲0.5%	▲2.0%	+1.7%
2月7日	18,541	8,325	3,675	▲569	▲127	▲265	▲2.7%	▲0.9%	▲6.8%	▲4.5%	▲4.3%	▲5.8%
2月14日	18,709	8,030	3,623	+168	▲295	▲52	+1.6%	▲4.8%	▲4.9%	▲4.9%	▲8.7%	▲10.6%
2月21日	18,283	8,535	3,617	▲426	+505	▲6	▲2.1%	▲0.7%	+3.3%	▲5.8%	▲4.3%	▲5.9%
2月28日	18,291	8,411	3,546	+8	▲124	▲71	▲0.0%	+0.6%	▲8.1%	▲5.6%	▲5.7%	▲7.4%
3月7日	19,027	8,949	3,697	+736	+538	+151	+2.3%	+3.7%	+10.4%	▲1.8%	+0.1%	▲5.1%
3月14日	18,783	8,512	4,159	▲244	▲437	+462	+5.7%	+2.3%	+16.2%	▲0.7%	▲3.5%	+9.7%

米国の石油製品出荷量は、前週に比べて日量▲24万バレル減。ガソリンも▲43万バレル減だが、留出油は+46万バレル増。ただ、前年同月比では石油製品、ガソリン、留出油とも増加しており、それぞれ+5.7%、+2.3%、+16.2%増となっている。2週連続の増加。





TOPICS 欧州の使用する天然ガスの16%がウクライナを経由している。 by EIA

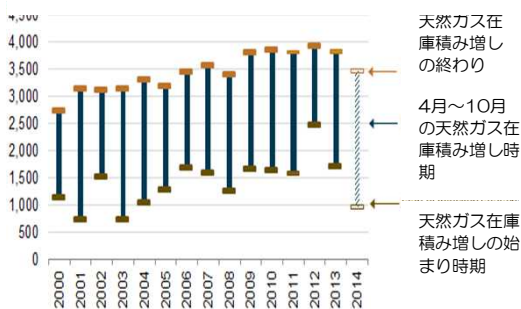
Major natural gas transit pipelines flowing through Ukraine



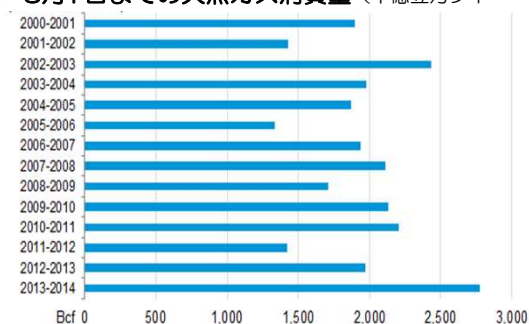
すべてのEU諸国と、トルコ、ノルウェイ、スイス、及び非EU諸国のバルカン諸国は2013年18.7兆立方フィートの天然ガスを使用した。ロシアはその30%を供給しているが、ガズプロムとEastern Bloc Energyによれば、そのおよそ16%がウクライナを経由して供給されている。

TOPICS 米国の天然ガス在庫は11年ぶりの低水準に by EIA

米国の天然ガス稼働在庫



3月7日までの天然ガス消費量（十億立方フィート）



北米の広範な地域にわたり長引いた寒い冬は、記録的な天然ガス消費をもたらし、天然ガス在庫は過去11年で最も少ない水準に落ち込んだ。4月～10月の天然ガス在庫積み増し時期にはおよそ2兆5000億立方フィートの在庫積み増しとなる見込み。

寒波の襲来により天然ガス利用時期が終わる3月末までに天然ガス消費量は2兆8510億立方フィートに上り、11月1日から3月10日までの期間で、1日当たり912億立方フィートという過去最高の使用量となった。これは昨年の+10%増で過去5年平均の+13%増であった。

以前に比べて多い天然ガス生産量により、4月に始まる天然ガスの充てん量は記録的な在庫を積み増すことを容易にしている。4月～10月までの天然ガス充填量は2001年が最高だったが、今年はそれを抜いて2兆5000億立方フィートとなり、10月末の在庫量は3兆4590億立方フィートとなる見込み。しかし、過去最高の積み増し量によっても、この在庫量は2008年以降最小の在庫量である。これだけの在庫充填を行っても寒波襲来による天然ガス利用量の増加を補うことはできない。

EIAは夏場の天然ガス価格は4ドル/百万Btuの低価格で推移すると予想しているが、発電用の天然ガスの増加を制限するには十分な価格と見ている。夏場が平年並みの天候であると仮定するなら、4月～10月にかけての天然ガス発電用天然ガス消費量は1日当たり239億立方フィートと思われる。これは昨年と同水準で、この間の天然ガス生産量は、前年比2%増の1日当たり681億立方フィートと推定している。

TOPICS FOMC100億ドル金融緩和縮小 ～FOMC 声明・FRB議長会見骨

【声明内容】

- ★ 量的緩和を100億ドル追加縮小。1カ月の資産購入額は米国債300億ドル、MBS250億ドルに
- ★ 事実上のゼロ金利政策を据え置き
- ★ 政策金利のフォワードガイダンスを変更。失業率と物価上昇率の数値基準を撤廃
- ★ 量的緩和終了後も、現在の超低金利を相当の期間、継続
- ★ 雇用・物価が目標近辺に到達後も、政策金利を低い水準に
- ★ 金融政策は8対1で決定
- ★ 悪天候が影響し、この数カ月の経済成長は鈍化
- ★ 労働市場はさらに改善も、失業率は高水準
- ★ 米財政政策の経済成長に対する制約は弱まっている
- ★ 長期のインフレ期待は引き続き安定
- ★ 幅広い経済分野で労働市場改善を支える力強い動き

【記者会見内容】

- ★ 量的緩和は秋にも終了の見込み
- ★ 量的緩和終了後、「半年」程度はゼロ金利維持＝声明の「相当長期」を説明
- ★ 失業率が6.5%に近づいており、ガイダンス変更の必要性あった。失業率6.5%に近づいても雇用の最大化には程遠い
- ★ ガイダンス変更は政策意図の変更を意味しない
- ★ 政策金利の引き上げは、幅広い情報に基づき判断する必要
- ★ 1月の声明の景気認識はやや楽観的すぎた
- ★ 12～3月の景気認識には、おおむね変化はない
- ★ 量的緩和縮小は昨年12月に示した政策枠組みに添うもの。今後の会合でも一定規模で縮小する見通しだが、既定路線ではない

今後の予想

は、雇用と物価の改善状況注視
は目標をはるかに下回っており、緩和策が必要

ウクライナ問題は、軍事衝突になる可能性は無い。米国とロシアは一方が軍事派遣を行った場合は、他方は派遣しないと
いう暗黙の了解がある。また欧州各国もウクライナを支援する姿勢は崩さないが、武力介入するほどのことはない。ロシア
との間柄は原油や天然ガスというエネルギー関連だけでなく、貿易や金融関係でも密接なつながりがある。プーチン大統領
にとっても、政治的権力を揮えば経済的制裁を受けることは承知の上だが、それが国内の経済的不満につながることは恐れ
ている。そのため、一定限度で矛を収めるものと思われる。

世界の原油需給は、カナダのオイルサンドと米国のシェールオイルによる供給増が新興諸国のモータリゼーションを中心
とした原油需要の伸びを大きく上回っている。世界の需要の伸びが2013年、14年それぞれ前年比日量+104万、114万
バレルであるのに対し
非OPEC諸国の原油供給の伸びは、それぞれ前年比+155万、+146万バレルであるので、その差の分だけOPECは減産せ
ねば供給過剰になってしまうが、OPEC諸国は、減産できていない。2月は前月比+40万バレルの増産であった。s
従って、原油価格は高くて105ドル、安ければ90ドルになると思われる。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示
したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありませ
ん。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。
本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加
工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。
本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少するこ
ともあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した
場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：

COMMODITY
INTELLIGENCE株式会社コモディティ インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛸殻町1
丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692